

令和7年度千葉県高等学校軽音楽コンテスト新人大会 予選注意事項

予選における演奏スタジオ内の音量調整について以下の点にご協力下さい

A) ボーカルの「声」が聴きとりやすい音量にして下さい

- ①特にギターアンプとベースアンプの音量に注意して下さい。例年、音量を上げ過ぎている場合が多くみられます。これによって、ボーカルの「声」がかき消され、審査にも影響することがあります。
- ②PAの調整でボーカルの音量をギターアンプやベースアンプに負けない音量に上げて調整してしまうと「ハウリング」の原因にもなりますし、マイク音量の調整には限界があります。
- ③アンプやボーカルマイク音量を上げすぎると、演奏者はドラムの音が聴こえにくくなります。リズムがとりにくくなり、バンドのアンサンブルに影響が出ます。
- ④アンプの音量が大きすぎる状態で演奏すると、ギタリストやベーシストをはじめ、各メンバーの耳に大きな負担がかかり、聴力低下を引き起こすことがあります。
- ⑤審査員の先生方も聴力低下を引き起こす可能性があります。審査員の先生方は、至近距離でたくさんのバンドを聴き続けますので、大音量の場合耳への負担はかなり大きくなってしまいます。

B) 各バンド自身で適切な音量に調整して下さい

- ①ドラムの音量はPAで大きくすることはできません。基本的にはドラムの音量を目安にしながらバンド全体の音量を決め、審査の際に「歌」が十分聞こえるような音量バランスを心がけて下さい。審査員の先生方は、歌詞を含めた「歌」をしっかり聴くことで、曲全体の良し悪しを審査しています。
- ②ギタリストとベーシストは、セッティングの際にはアンプの正面に立ち、アンプのスピーカー（音が出ている所）の高さと同じ程度の位置で自分の音量を確認して下さい。なお、普段の練習で使っているアンプの目盛りを基準にしても必ず同じ音量になるわけではありません。必ず、当日使用するアンプから出る音を、自分の耳で確認して下さい。
- ③バンド全体でサウンドチェック（ワンコーラス演奏）のタイミングになったら、ボーカリスト（もしくはバンド全体の音を確認できる方）は、ギターアンプとベースアンプから出てくる音量が大きすぎないか確認して下さい。大きいようであれば、そのパートを担当するメンバーに音量を下げるように伝えて下さい。

C) 顧問の先生へお願い

演奏スタジオに入る前に必ず、バンドメンバー全員に上記の項目を確認させ、実施するようにお伝え下さい。なお、サウンドチェックの際に顧問からバンドへの指示は出せませんのでご注意下さい。

円滑な運営にご協力をお願いいたします